

島根県立 江津高等学校



文化系部活動が連携、地域に飛び出す

チーム江津地域活性部

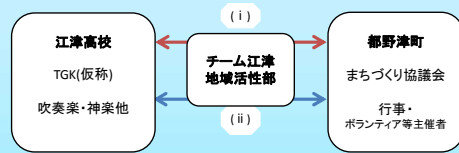
学校概要

- 教育目標として「地域社会を幸せにする力を培う」掲げる。
- 平成25年度より「地域でつなぐキャリア教育モデル事業（平成25年度～平成27年度）」に取り組む。
- 地域の各関係者と連携し、地域の将来を担い、地域に根差した人材育成に力を注ぐ。



活動体制

- 平成26年6月に設置。
- 「地域と学校を繋ぐ架け橋となる」ことを活動理念に掲げる。
- 既存の部活動で構成（部活動の連合体）。
- このうち、T G K（主にまちづくりを実施する有志）が毎週金曜日の放課後江津市都野津町連合自治会長と都野津地域におけるまちづくりについて、ミーティングを実施。



- (i) まちづくりのアイデアを提示 ↔ 実現に向け検討・協議
- (ii) 地域での活動・行事への参加 ↔ 活躍の場を提供

平成26年度の活動概要

- 既存の部活動（吹奏楽部・神楽同好会・家庭クラブ・茶道部・ロボット同好会）が地域をフィールドに活動。
- 併せて、江津市都野津町のまちづくりに参画。地域の課題、地域の将来に関するアイデアの提案に向けミーティング、フィールドワークを重ねる。

【主な活動】

- まちづくり。平成26年10月～平成27年3月、「まち」について知り、「まち」の課題を探すミーティングやフィールドワークを展開（毎週金曜日）。
- 「きらめきフェスタ」を開催（平成27年1月）。これまで吹奏楽部が主催していた「きらめきコンサート」を、チーム江津地域活性部が主催となり、江津高校生徒・教職員と都野津町のつながり、そのきっかけづくりを目指す。

平成26年度の活動の様子



JR江津線
運転再開記念
行事での演奏
(平成26年7月)

高校生の神楽甲子園に
チーム江津地域活性部
石見神楽愛好会として出場
(平成26年7月)

都野津町のまちづくりに
ついてメンバーで
ミーティング（毎週金曜日）

つづき
きらめき
フェスタ
(平成27年1月)

江津産にと
んこだわつた
「里弁」の
開発

平成26年度を振り返って

- 地域の方々から教えてもらうことが多い、応援してもらうことがとても心強い、と生徒の声。地域と関わる生徒が増えることで、こうした声や意識が高まる。
- 生徒が「自分たちでまちをつくった」という自信と誇りをもって将来と向き合うことを期待。
- 進路指導部キャリアグループの取り組みとの連動を検討。
- 将来的には生徒が学校を離れた後も地域の活動へ参加できるようにすることをねらう。

平成27年度の計画・方針

- 地域住民と高校生のつながりをつくる！
- ①地域行事への参加
- ②地域の新たなイベントの企画
- ③既存地域団体との連携

【主な活動】

- 敬老会、納涼祭り等地域行事への出演・準備手伝い
- 吹奏楽プロムナードコンサート(10月)・・・地域の方に気軽に吹奏楽を楽しんでもらえるようなイベント
- きらめきフェスタ(2月)・・・地域の方々・卒業生が江津高校に足を運べるような企画
- 卒業神楽・・・企画から上演まですべて高校生が行う
- まちめいろの企画(企画内容を全国郷土研究発表会にて発表)
- Boom in Gotsu・・・江津JCI主催、江津の活性化に取り組む。現在、江津をPRするためのLINEスタンプを企画中

平成27年度の活動～発展～



第5回高校生の神楽甲子園出場
民泊先の広島県安芸高田市美土里町北
振興会の方々との交流(平成27年7月)

平成27年全国郷土研究発表会出場
(岐阜県、平成27年8月)

つづきBOYまつり(江津市都野津町の
人麩神社にて行われた緑日をテーマ
に行われたイベント)への参画(平
成27年8月)

このほか、都野津町納涼祭り準備(平
成27年8月)、敬老会神楽公演(平成
27年9月)も実施



Boom in Gotsu
江津JCI主催で、江津市
に住む若者が集まって江
津の活性化に取り組む
活動に参加

部員の想い

- 自分が住んでいるところではない地域での活動ではあるけど、この活動を通して地域の人たちと交流することによって、この地域の活性化をしたいと思った。
- また、自分が住んでいる地域の行事にも参加をして、自分の地域の活性化をするにはどうしたらよいかについても考えるようになった。
- 将来いつになるかはわからないけど地元に戻って地域のために働く仕事をしたかった。



指導者の想い

- この活動を行うにあたり、次の3点を目標としてきた。
- ① 高校生が「地域社会」というものを意識すること
- ② 高校生が自分自身も「地域社会」の一員であることを自覚すること
- ③ 地域が子どもたちを育てるという意識をもつこと
- これができれば地域社会で起こる諸問題、高校生を取り巻く環境を少しでも改善できるのではと考えた。この目標を達成するためには、地域住民と高校生がつながりを持つことが必要であると考えた。



地域系部活動の促進に向けて keyword：主体性・波及性・継続性

- 地域の方々を高校生を地域に受け入れる雰囲気は作られつつある。また、校内においても生徒が地域で活動することに理解が広まりつつある。
- 今後この活動を続けていくためには、高校生と地域の方々をつながりを持つことが必要であると考えます。本校の場合はコーディネーター等がないので地域（地域コミュニティ等）と学校の実務者レベルでのつながりを持つことが必要となる。